

平成29年度 病害虫発生予察情報

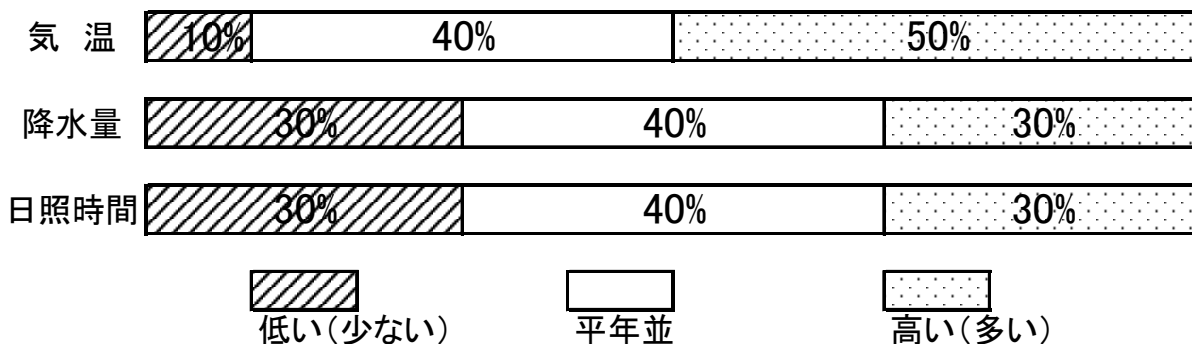
発生予報第4号（7月）

平成29年6月30日
島 根 県

予報の概要

区 分	農作物名	病害虫名	予想発生量	
普通作物	イネ	葉いもち	やや少ない	
		紋枯病	平年並	
		縞葉枯病	平年並	
		萎縮病	平年並	
		黄化萎縮病	平年並	
		ヒメトビウンカ	やや多い	
		ニカメイチュウ	やや少ない	
		ツマグロヨコバイ	やや少ない	
		セジロウンカ	平年並	
		トビイロウンカ	平年並	
		コブノメイガ	平年並	
		斑点米カメムシ類	やや多い	
		果樹	ナシ	黒斑病
黒星病	やや少ない			
シンクイムシ類	平年並			
ハマキムシ類	平年並			
ハダニ類	平年並			
アブラムシ類	平年並			
カキ	円星落葉病			平年並
	カキミガ			平年並
果樹全般	カメムシ類			やや少ない

中国地方1か月予報(7月1日～7月30日・広島地方气象台6月29日発表)
<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



A. 普通作物

1) イネ

(1) 葉いもち

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①育苗期に発生が認められ、6月上旬に実施した置き苗の調査（1371ほ場対象）での発病苗率は0.4%（平年0.4%）であった。
- ②6月下旬の巡回調査（70ほ場）では発生を認めなかった。（平年の発生ほ場率1.0%、発病株率0.3%）
- ③常習発生地では育苗箱施薬の実施率が高い。
- ④向こう一か月の気象は本病の発生を特に助長しない。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ①前年、発病程度の高いほ場があり、このようなほ場では越冬菌量が多い。
- ②6月下旬の巡回調査（70ほ場）では発生を認めなかった。（平年の発生ほ場率1.6%、発病株率0.1%）
- ③常習発生地の一部では育苗箱施薬が行われている。
- ④向こう一か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(3) 縞葉枯病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ①媒介虫のヒメトビウンカの発生量はやや多いと予想される。
- ②近年の保毒虫率は低い。

(4) 萎縮病

予報内容

発生地方 常習発生地
発生量 平年並

予報の根拠

- ①媒介虫のツマグロヨコバイの発生量はやや少ないと予想される。
- ②近年、本病の発生は極めて少なく、保毒虫率は低いと考えられる。

(5) 黄化萎縮病

予報内容

発生地方 常習発生地
発生量 平年並

予報の根拠

- ①近年、本病の発生は少ない。
- ②向こう一か月の気象は本病の発生をとくに抑制しない。

(6) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①6月下旬の巡回調査では、捕獲数は1.2頭/50株（平年0.7頭）、発生ほ場率は27.3%（平年22.7%）で発生量は平年に比べやや多い。
- ②6月25日までに予察灯（出雲市、益田市、隠岐の島町）、粘着誘殺灯への誘殺は認められない。出雲市のネットトラップでは6月29日までに2頭の飛来が確認された。飛来数は平年並みである。
- ③4月中旬の越冬世代成幼虫と6月下旬成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%と低い。
- ④向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(7) ニカメイチュウ (第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、被害株率は0% (平年5.2%) で発生量は平年に比べやや少ない。
- ② 6月第5半旬までの予察灯、フェロモントラップにおける誘殺数は平年並みである。
- ③ 向こう一か月の気象は本種の発生に助長的である。

(8) ツماغロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、捕獲数は1.4頭/50株 (平年2.7頭)、発生ほ場率は15.9% (平年39.5%) で発生量は平年に比べやや少ない。
- ② 予察灯における誘殺は平年に比べやや少ない。
- ③ 向こう一か月の気象は本種の発生に助長的である。

(9) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 初飛来は5月23日益田市の予察灯で確認され、5月29日までに益田市では3頭が誘殺された。その後6月25日まで誘殺されていない。
- ② 6月27日までに出雲市、隠岐の島町の予察灯への誘殺は確認されていない。
- ③ 6月下旬の巡回調査では、捕獲数は0.6頭/50株 (平年4.1頭)、発生ほ場率は6.8% (平年45.6%) で発生量は平年に比べやや少ない。
- ④ 向こう一か月の気象は本種の発生に助長的である。梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。

(10) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月25日までに予察灯 (出雲市、益田市、隠岐の島町)、粘着誘殺灯、ネットトラップで誘殺されていない。
- ② 6月下旬の巡回調査では、ほ場での発生は認められない。
- ③ 向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。

(11) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月25日までに予察灯 (出雲市、益田市、隠岐の島町)、粘着誘殺灯、ネットトラップで誘殺されていない。
- ② 6月下旬の巡回調査では、ほ場での発生は認められない。
- ③ 向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。

(12) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の圃場周辺雑草地でのすくい取り調査では、斑点米カメムシ類合計で11.7頭/20回振り (平年7.0頭)、発生ほ場率は89.5% (平年64.7%) で発生量は平年に比べやや多い。主要種はアカスジカスミカメである。

②向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率4.0%（平成6.8%）であり、発生量は平年に比べてやや少ない。

②向こう一か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない～少ない

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率は0.3%（平成1.3%）であり、発生量は平年に比べてやや少ない。

②向こう一か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 平成並

発生量 平成並

予報の根拠

①フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺時期は平成並み、誘殺数はやや少ない。

②向こう一か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 平成並

発生量 平成並

予報の根拠

①県予察ほ場（出雲市）のフェロモントラップにおけるハマキムシ類雄成虫の誘殺時期は平成並み、誘殺数は平成並みである。

②向こう一か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(5) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平成並

予報の根拠

① 6月下旬の発生量は寄生葉率5.8%（平成8.4%）、寄生虫数7.2頭/50葉（平成19.7頭）と平成並みである（グラフ参照）。

②向こう一か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(6) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

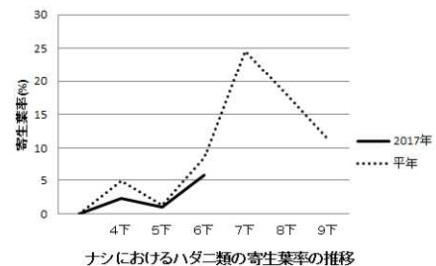
発生量 平成並

予報の根拠

① 6月下旬の寄生新梢率5.5%（平成9.0%）、寄生度1.7（平成4.0）と平成並みである（グラフ参照）。

②黄色水盤への有翅虫飛来数は平成並みである。

③向こう一か月の気象は本種の発生にやや助長的である。



2) カキ

(1) 円星落葉病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量(感染量) 平年並

予報の根拠

①前年の発生は平年並みで、伝染源量は平年並みと考えられる。

②向こう一か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) カキミガ(第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 平年並

発生量 平年並

予報の根拠

①前年の第2世代幼虫による被害は平年並みであり、越冬量は平年並みと考えられる。

②向こう一か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

3) 果樹全般

(1) カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域(特にナシ無袋、カキ栽培地帯)

発生量 やや少ない

予報の根拠

①6月第5半旬までのフェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺数は44頭(平年218.1頭)とやや少ない。

②6月5半旬までの予察灯でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ3種の合計誘殺数は46頭(平年値118.8頭)でやや少ない。

③向こう一か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

農薬の安全使用の徹底を!

- ・農薬の使用基準(適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数)を遵守する
- ・防除履歴(使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量)を記帳する。
- ・農薬散布時には周辺作物に飛散(ドリフト)しないように注意する。
- ・水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

○病害虫防除所のホームページでは発生予察情報の他、各種情報を掲載しています。

島根県病害虫防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>